

中小企業を取り巻く環境は、現在も厳しい状況が続いています。倫理法人会でいかに学び、そしてどのように実践することが、自社の発展につながるのでしょうか。

第一は、トップとして、よりよく変革していくことです。中小企業の場合、企業の盛衰はトップが握っているといえるでしょう。トップが変われば企業が変わる「企業はトップの器以上にはならない」という言葉には真実味があります。企業が時代の流れに適応し続けていくためには、リーダー自らが変わり続け、成長していくことが求められます。

ところが、自らを成長させたいと願う一方で、変わらなくてもいいと現状維持を望んでしまう自分もどこかにあるのではないのでしょうか。あるいは、いらぬプライドが、これまでの自分から変化していくことを許さないのかもしれない。

経営者モーニングセミナーなどの学習の場を通じて私たちが学ぶのは、純粹倫理と呼ばれる生活法則です。その核心は「心のありよう」です。どのような心持ちで取り組んだかが、物事の結果に直接的に結びついているからです。ではどのような心が求められるのでしょうか。そのひとつが明朗です。

明るく朗らかな心を常に持ち続けることで、希望を高く掲げつつ、周囲の人間を勇気づけて進むことができるでしょう。もし何か不慮の事態が起こったとしても、動じることなく前向きに捉えて乗り越えていくことができるのです。モーニングセミナーに参加している会員企業の経営者は、総じて明るく前向きです。それは日常の学びと実践の賜物にほかなりません。

永続的な企業発展は トップの変革にあり



第二は、企業として目指すもの、すなわち目的・理念に磨きをかけ、揺るぎない企業の縦軸として確立していくことです。純粹倫理という生活法則に照らして、企業理念を見直してみたり、トップ自身がその理念に見合う生き方をしているかを問い直すことが重要です。理念もなく、ただ利益にのみ走る経営がどのような結果を招くかは、歴史が証明しているところです。その理念の要素を端的に示すなら、それは「世のため人のため」ということになるでしょう。

第三は、その企業・店舗の社員が働きがいや喜びを見いだせる場づくりをすることです。その「道具」として、倫理法人会では活力朝礼の導入を推進しています。『職場の教養』を活用し、感想を述べ合うことは、積極的に仕事に取り組む心を養います。

また挨拶や返事などのトレーニングは、一見すると堅苦しいように思えますが、継続していくことで一人ひとりの個性が磨かれていきます。それが結果として、活気に満ちた職場を作り出していくのです。

しかし朝礼だけを良くしようとしても、結果は出ないでしょう。前述のように、「企業として何を指すのか」「経営者が何のために生きるのか」がベースとして確立されていなければ、どんなに素晴らしい朝礼を作り上げたとしても、砂上の楼閣に終わります。

激動の時代を乗り越え、お客様、取引先、共に働く社員、そして地域社会になくてはならない企業として発展・永続していく。そのために経営者自らが学びと実践を深化させ、周囲に喜ばれる自分づくりをしていこうではありませんか。

絵・今谷 鉄柱